

イベントレポート『2011 GT耐久東海シリーズ 第4戦』

開催日 2011年10月16日(日)

9:30 決勝スタート 12:25 チェッカー

天候 晴れ

最高気温 24.8℃(12時)

場所 スパ西浦モーターパーク

参加台数 26台

前日から降り続いた雨は朝方には止み、秋晴れの中で行われた第4戦。自動車メーカー関連企業の土日出勤体制が9月で終わったこともあり、今回は26台のエントリーと以前の賑わいを取り戻した。

中でも「1+2」クラスは9台、3Cクラスは12台がエントリーし、激しいポジション争いが展開された。

フリー走行開始時には一部ウエット路面が残っていたが、決勝開始時には完全に路面は乾き、ドライコンディションの中熱い戦いが繰り広げられた。



■ 「1+2」クラス(1500cc以下のNA車と、1200cc以下のターボ車)

今回は1000ccのヴィッツが2台、NAのストーリーア、1.3Lのスイフト、マーチスーパーターボ、1.5Lのシビックと、バラエティーに富んだ車種が初参加。

第2戦で優勝を飾った1000ccのマーチは今回エントリーしていないものの、ハンディーを上手く活かせば小排気量車でも優勝を狙えることは証明済みである。

シリーズポイント上位ランカーのNo.56「COCPIT高橋N+EP91」、No.16「プロジェクトスターレット」、No.110「アライメント浜松シティー」といったチームが、新規参加チームに対して貫禄を示すことができるのか？



■ 予選

予選一番手タイムをマークしたのはNo.110「DXLアライメント浜松シティー」でタイムは1'02.169。2番手のNo.16「プロジェクトスターレット」も僅か0.13秒差の1'02.295でピタリとマークする。

3番手にはNo.56「COCPIT高橋N+EP91」が1'06.154で続き、シリーズ上位ランカーが3台揃う結果となる。

4位にはNo.17「カムココだわりの1.3スイフト」が1'10.129で入り、新規参加チームのトップに付ける。5位も同チームのNo.12「カムコパッションネマーチ」が1'10.577で続く。

以下6位に1'13.218でNo.449「金沢工大自動車部ストーリーア」、7位に1'13.689でNo.27「PROFITルブロスVitz2」が続く。



■ 序盤

今回のGT耐久はスタートから1時間が経過した時点でも赤旗中断が一度も無く、トップは52周と多くのラップを周回する展開となる。

この時点での1+2クラスの1位は予選一番手からスタートのNo.110「DXLアライメント浜松シティー」で51Lapを周回する。



2番手のNo.16「プロジェクトスターレット」も同一周回の51Lapに付け、トップ争いを継続する。

3位にはNo.56「COCPIT高橋N+ EP91」が48LAPで続くが、上位2チームとは少し差が開いてしまう。

4位のNo.17「カムココだわりの1. 3スィフト」は46LAP、5位のNo.27「PROFITルブロスVitz2」はピット時間マイナスのハンディーを活かして、45LAPの5位に浮上してくる。

また6位のNo.449「金沢工大自動車部ストーリー」も45LAPに付け、4位争いが激化してくる。

■終盤

2時間経過時点でも、No.110「DXLアライメント浜松シティー」が1位の座をキープ。ラップ数は88周となる。

2位のNo.16「プロジェクトスターレット」はトップから1周遅れに付け、ラスト1時間での逆転を狙う。

No.56「COCPIT高橋N+ EP91」は80LAPで3位をキープするものの、4位のNo.17「カムココだわりの1. 3スィフト」が79LAPと迫って来ている。

5位のNo.449「金沢工大自動車部ストーリー」も77LAPに付け、表彰台に望みをつなぐ。

以下6位に74LAPでNo.27「PROFITルブロスVitz2」、7位に72LAPでNo.12「カムコパッションネマーチ」が続く。

■最終結果

トップでチェッカーを受けたのはNo.110「DXLアライメント浜松シティー」。予選1位から終始トップの座を守り続け、131周を走りきった。

2位には129周でNo.16「プロジェクトスターレット」が続いた。終始トップを視野に入れての展開ではあったが、あと一歩及ばなかった。

3位には124LAPでNo.56「COCPIT高橋N+ EP91」がゴール。シリーズ上位ランカーが表彰台を占める結果となった。

4位から9位までは初出場マシン同士での戦い。この戦いに勝って4位となったのは116周をラップしたNo.17「カムココだわりの1. 3スィフト」であった。

5位のNo.449「金沢工大自動車部ストーリー」は114周を走りきり、ニューマシンのデビュー戦を入賞で飾った。

6位には1クラスに該当するNo.27「PROFITルブロスVitz2」が、ピットハンディーを上手く活かして入賞を獲得した。

今回の結果を受けて、シリーズポイント争いはNo.110「DXLアライメント浜松シティー」が55点でトップに立った。

しかし2位のNo.16「プロジェクトスターレット」は50点、3位のNo.56「COCPIT高橋N+ EP91」も49点とポイントが接近しているため、シリーズ優勝の行方は最終戦のチェッカーが振られるまでわからないと言えよう。





■3Cクラス(1501~2000ccのNA車と、1201cc~1800ccのターボ車の、改造範囲の狭いクラス)

過去最多となる12台のマシンがエントリーした3Cクラス。シリーズポイント争いは、ここまで2回優勝のNo.830「URG WM CLNシビック」がポイント40点で頭一つリードしている。これをNo.33「海老天ミラージュ國盛」とNo.111「S'tec AE-1ファジートレノ」が30ポイントで追いかけるが、No.33は今回も欠席。以下26ポイントのNo.28「アクセントBスターレット」、24ポイントのNo.3「ProミューチームグローバルDB8」が僅差で続く。

■予選

予選1番手となるタイムをマークしたのは、このクラスに初エントリーとなるNo.31「イケダレーシングSDCシビック」で、タイムは1'03.540。このチーム、チーム名こそ変わっているが、実は第3戦までは1000ccのマーチでエントリーしていたチームである。

2位に入ったのはNo.28「アクセントBスターレット」でタイムは1'04.224を記録。第2戦での優勝チームが意地を見せる。

3位には2位から遅れること僅か0.07秒の1'04.299をマークしたNo.13「児島自動車高田眼科岸本シビック」が続く。このチームは今年初参戦であるが昨年までカルタスで参加していたチームで、岡山県からはるばるエントリー。

シリーズリーダーのNo.830「URG WM CLNシビック」は1'04.344で4位に付けるが、3位とのタイム差は僅か0.05秒。

今年初参加となるNo.58「ヒロエンタープライズEF9」は1'04.388で5位に入るが、このタイムも4位との差は僅か0.04秒。ヴィッツレースの予選さながらの大接戦となる。

以下も4秒台の好タイムが続き、6位のNo.106「D&Mブジョー106」は1'04.528、7位のNo.111「S'tec AE-1ファジートレノ」は1'04.889、8位のNo.75「DXLシーワンNチームEP82」は1'04.963と大混戦の予選となる。



■序盤

今回は序盤の1時間で赤旗が一度も出ないクリーンなレース。1時間経過時点でトップの車両は52Lapを周回する。

トップ周回となる52Lapを記録しての1位はNo.51「ヒロエンタープライズDC2」で、予選9番手から大きくジャンプアップ。

それを2位のNo.28「アクセントBスターレット」と、3位のNo.830「URG WM CLNシビック」が51Lapで追いかける。

4位から8位までは50Lapで並ぶ大混戦。

4位 No.58「ヒロエンタープライズEF9」、5位 No.75「DXLシーワンNチームEP82」、6位 No.31「イケダレーシングSDCシビック」、7位 No.106「D&Mプジョー106」、8位 No.111「S'tec AE-1ファジートレノ」というオーダーになる。



■終盤

2時間が経過した時点でのトップは、No.58「ヒロエンタープライズEF9」で88Lapを走行する。しかし続く2番手のNo.28「アクセントBスターレット」と3番手のNo.830「URG WM CLNシビック」も、同一周回で、三つ巴の様相となる。

続く4位のNo.75「DXLシーワンNチームEP82」と、5位のNo.106「D&Mプジョー106」も87Lapと優勝圏内をキープする。

6位のNo.51「ヒロエンタープライズDC2」、7位のNo.111「S'tec AE-1ファジートレノ」、8位のNo.13「児島自動車高田眼科岸本シビック」、9位のNo.3「ProミューチームグローバルDB8」もトップと僅か2Lap差に付けてはいるものの、この大混戦の中では6位入賞を狙うことすら容易ではない。



■最終結果

予選結果からも想像は出来たが、決勝はやはり大混戦となった。

この混戦を制しトップでチェッカーを受けたのは、終始トップに絡み続け130周を走りきったNo.28「アクセントBスターレット」であった。第2戦以来の2勝目を挙げ、最終戦での逆転シリーズ優勝に望みを切らないだ。

2位となったのは129LapのNo.830「URG WM CLNシビック」。シリーズポイント15点を獲得したことで、シリーズ優勝に向けて優位なポジションをキープした。

3位には今年初参加のNo.58「ヒロエンタープライズEF9」が129Lapで入った。

4位は128LapのNo.106「D&Mプジョー106」が入り、10ポイントを獲得したことでシリーズ順位を一つ上げた。

5位のNo.111「S'tec AE-1ファジートレノ」と6位のNo.13「児島自動車高田眼科岸本シビック」は共に127Lapで、ここまでが表彰圏内となった。

第4戦を終えて、自力でのシリーズ優勝の可能性を残したのは55点のNo.830「URG WM CLNシビック」、46点のNo.28「アクセントBスターレット」、38点のNo.111「S'tec AE-1ファジートレノ」の3チームであるが、No.830の優位は変わらない。

しかし何が起るかかわからないのが耐久レース。最終戦ではどんなドラマが展開されるのか。





■30クラス(1501~2000cc の NA 車と、1201cc~1800cc のターボ車の、改造範囲の広いクラス)

今回、2台のAE86がニューエントリー。これを3台のシビックが迎え撃つ形となるが、シビック勢は全車とも当シリーズの参加経験が長く、戦い方も熟知している。

またシリーズポイント争いは、No.19「YADOKARIシビック」と、No.83「URG WM CLNシビック」の2台に絞られた感が強いが、最終戦に向けて弾みを付けられるのはどちらのチームになるのか。



■予選

予選1位はNo.83「URG WM CLNシビック」。オーバーオールとなる1'01.362をマークし、1番グリッドを確保する。

予選2番手は1戦振りの復帰となったNo.6「ソーワフレミングシビック」で、1'04.018を記録する。

予選3位はシリーズリーダーのNo.19「YADOKARIシビック」で、2位に肉薄する1'04.338のタイムをマークする。

初参加となる86勢は、4位と5位のポジション。

4位にはNo.71「カローラポンコレビン」が1'07.490で、5位にはNo.2「NGRSLレビン」が1'07.592で続く。



■序盤

ポールスタートのNo.83「URG WM CLNシビック」は、危なげない走りでも1時間経ったところでも1位をキープする。周回数はトップとなる52Lapをマーク

2位にはNo.6「ソーワフレミングシビック」が49Lapで続く。

3位スタートのNo.19「YADOKARIシビック」は、スタートから間もなく排気音量オーバーのためオレンジボール。これが大きく響き、48Lapで3位のポジション。

以下4位のNo.2「NGRSLレビン」と5位のNo.71「カローラポンコレビン」は共に39Lapで続く。



■終盤

1時間半の時点で2位に浮上していたNo.19「YADOKARIシビック」だが、駆動系のオイル漏れのトラブルにより75周でレースを終える。

2時間が経過した時点でも、No.83「URG WM CLNシビック」が1位を走り続ける。90周を走行し2位に8週の差を付ける。

2番手はNo.6「ソーワフレミングシビック」が82周で追いかける。

No.19のリタイヤにより3位に浮上したのは、No.2「NGRSLレビン」で72Lapを走行。

4位のNo.71「カローラポンコレビン」は68Lapで3位を追い上げる。



■最終結果

チェッカーまであと 5 分となったところで、No.6「ソーワフレミングシビック」がまさかのマシンストップ。チェッカーを受けることが出来ず、大きく順位を落とすことに。

トップでチェッカーを受けたのは、No.83「URG WM CLNシビック」。磐石の走りで 133 周を走行し、見事なポールトゥーウインを決めた。ラスト 5 分まで 2 位を走っていた No.6「ソーワフレミングシビック」がチェッカーを受けられなかったことにより、No.2「NGRSレビン」が 2 位に浮上した。周回数は 112 周であった。

3 位には No.71「カローラポンコレビン」が 101 周で続いた。

No.6「ソーワフレミングシビック」はチェッカーを受けられなかったが、レース規定により 4 位の順位が認定された。

今回の結果でシリーズポイント争いは No.83「URG WM CLNシビック」が 50 点でトップに立った。シリーズ 2 位の No.19「YADOKARIシビック」は今回のノーポイントが大きく響き、40 点止まり。

No.83 の圧倒的優位であるが、No.19 が一矢報いることが出来るであろうか。

